



母校、それは「山門」



同窓会会長
井上 正明
第32代校長
47年卒

まず、最近の教育について私

見 小学校一年生のランドセルが重たいという。なんとかならないかと。重たいと思ったら、子供はどうしようと思うだろうか。学校に行くのが嫌になるだろうか。何とか重たいランドセルを背負って、力をつけようと思うだろうか。

登校時は晴れていたが、帰宅時に雨が降ると、学校にはお迎えの車が渋滞となる。子供は雨に濡れるのをそんなに嫌がっているのだろうか。迎えて来てくれることを期待しているのだろうか。

大人は言います、「何かあったらどうする」と。最近、このような言葉が子供の成長を妨げているようなことはないだろうか、と心配をしています。

卒業をした学校を「母校」という。父校とはいわない。幼稚園・保育園を卒園した「子ども」が小学校に入学をして、また小学校を卒業した「児童」が中学校に入学をして、さらには高等学校に入学をして「生徒」になり、大学に進めば「学生」となります。

学校に入学をして「子ども」から「児童」そして「生徒」になり、「学生」となり「社会

人」となります。この間の「子ども」から「児童」そして「生徒」になり、「学生」となり「社会人」となる時に、それぞれに乗り越えるべき「困難」があり、試行錯誤を繰り返して、失敗を重ね、やがて乗り越えてこそその力が「成長」になります。

幼稚園・保育園から小学校に行くときに子どもが不安に学校にあげる時も、高校にあげる時もやはり不安があります。そのような不安を克服して成長できたのは、それぞれの学び舎が「母校」だからなのです。

ただ時間の流れで、「園児」、「児童」、「生徒」、「学生」、「社会人」となったわけではないのです。人は、高い低いの違いはあっても、節目節目に困難があり、壁となり、それ乗り越えて「成長」をしていくのです。そこには、先生という大人が、「がんばれ」といいながら教え、指導をし、導き、子どもは自分の力を自分で育てながら成長をするのです。

高校時代、友人もそうだったが、素晴らしい先生が「山門」にはおられた。厳しく、しかし、親身に時間関係なく、教育を受けました。

実感として高校教育を受けたというのが「母校」の「山門」であつた気がします。



なウイルスに悩まされる今日この頃ですが、皆さんはいかがお過ごしでしょうか？

福岡地区は博多や天神地区や福岡空港で大規模な再開発が行われております。

福岡空港は博多駅から地下鉄でわずか5分の場所に位置しており、非常に利便性の高い空港として知られていますが、周囲に住宅地が多く、いわゆる「都市型空港」として安全運航はもとより、周辺地域との共存・共生、そして共栄の観点からも環境問題をはじめとした対策も非常に重要です。



先日オープンした福岡空港管制塔は高さ94.2メートルあり、天神中心部のビル群とほぼ同等の高さとなり、国内では羽田空港に次いで全国で2番目に高い管制塔になります。施工は大成建設株式会社で同窓生も数多く携わって完成しています。福岡空港へ行った時、隣の都市高速を走る際に思い出して管制塔をご覧になってください。

先日は、アクロス福岡で開催された福岡県のワンヘルス国際フォーラムを見学に行きました。それぞれの高校の研究の成果には驚かされましたが、我が山門高校の発表内容に感嘆させられました。日本うなぎの研究は絶

ご挨拶



山門高校 校長
大久保 佳史

同窓会の皆様には、平素から母校の充実、発展に對しまして格別のご支援とご協力を賜り、衷心より感謝申し上げます。

今年度で創立一三三周年を迎えた本校はみやま市内唯一の高等学校で、県内はもとより国内さらには世界で活躍する社会のリーダーを数多く輩出している伝統校です。これからも先輩方から受け継がれてきた校訓「至誠・信愛・創造」の精神を本校教育の礎として、生徒一人一人の資質能力の伸長と希望進路の実現を目指した学校づくりに尽力いたします。

また、今年度の教育重点目標を「①全ての生徒が笑顔で楽しく安心して学校生活を送ることができるよう、一人一人に応じた適切かつ丁寧な支援に努める。②生徒の多様な進路希望の実現ができるよう、個々の習熟に応じた授業やクラス編成を生かした学力向上を図るとともに、理数探究コースの更なる充実を目指しDX(デジタル人材育成)推進に着手する。③同窓会とも連携し、一人一人が「母校に対する自信と誇り」が持てるような学校づくりに努める。④失敗を恐れずチャレンジさせるとともに、様々な機会を学校の内外で仕組み、主体性・自律心・企

減危惧種のうなぎにとつても貴重な研究ではないかと思ひます。

さて わが福岡山門会も四月十二日(土)に同窓会総会が例年同様博多大丸デパート最上階にて開催予定です。昨年はダンスでとても盛り上がりましたが今年はクイズ等で商品をお配りする予定にしております。ぜひ同窓生の皆様に声掛けをしていただいで多数のご参加をお待ちいたしております。よろしくお願ひします。



令和七年度 同窓会総会について



平成十四年卒
大同窓会総会
実行委員長
堤 栄太

面力・リーダー性等の非認知能力(目に見えない力)を育む。⑤地域貢献を図りながら「山門の魅力」を市内の小・中学校をはじめ学区内の関係各所に、はやく・広く・深く・具体的に発信することで志願者数の増加と入学定員数の安定確保につなげる。」とし、学校スローガン「一歩前へ チャレンジ」を合言葉に、日々の学習活動や部活動をはじめ、知的チャレンジ活動、各種資格取得、ボランティア活動など、生徒たちは臆することなく様々なことにチャレンジをしています。昨年度はその成果が認められ、「福岡県教育文化表彰」における優秀校、「福岡県とびうめ教育表彰」における最優秀校のダブル受賞を果たしました。

今後とも地元みやま市に愛される「人財育成拠点」として、その役割を果たすべく、全職員が一丸となり尽力してまいりたいです。同窓会の皆様には、母校への変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、山門同窓会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝、ご活躍を祈念申し上げます。

今年度の教育重点目標を「①全ての生徒が笑顔で楽しく安心して学校生活を送ることができるよう、一人一人に応じた適切かつ丁寧な支援に努める。②生徒の多様な進路希望の実現ができるよう、個々の習熟に応じた授業やクラス編成を生かした学力向上を図るとともに、理数探究コースの更なる充実を目指しDX(デジタル人材育成)推進に着手する。③同窓会とも連携し、一人一人が「母校に対する自信と誇り」が持てるような学校づくりに努める。④失敗を恐れずチャレンジさせるとともに、様々な機会を学校の内外で仕組み、主体性・自律心・企

関東支部より



関東支部長
北嶋 信顕

今年度の関東支部同窓会は5/31(土)開催

皆様、こんにちは。H十四年卒の堤栄太です。二〇二五年五月三日に開催される福岡県立山門高等学校の大同窓会の実行委員長を務めさせていただきます。今年のテーマは「人生一〇〇年時代を明るく、元気に生きるためのヒント」再び、山門の繋がりを」です。

このテーマのもと、母校山門高等学校の同窓会の繋がりを再認識し、同級生はもちろん、世代を超えて繋がるきっかけになればと願っております。特に、コロナ禍で希薄になった関係性を再び強固にするための場として、この同窓会が重要な役割を果たすことを期待しています。講演会終了後には懇親会も予定しており世代を超えた卒業生同士の交流の場としてぜひご参加頂けましたら幸いです。

現在、多くの方から大同窓会の成功に向けて寄付金やチケット購入の支援を頂いております。心より御礼申し上げます。今回の講演会では、二人の素晴らしい演者をお迎えします。まず、H十四年卒の桑野幸仁さんです。みやま市高田町出身で、九州医療スポーツ専門学校の教務部長を務める傍ら、株式会社HAPPLE-GROUPの代表取締役でもあります。演題は「く伸びる学生の特徴と伸ばす指導者が日々やっていること」です。桑野さんの経験と知識から、学生の成長を促すための貴重なヒントをお話しいただきます。次に、S十五年卒の坂井淳子さんです。柳川市三橋町出身で、現在は宮崎県フリーアナ

松尾紀彦先輩から関東支部長を引き継ぎました。北嶋信顕(昭和53年卒)です。三砂昭太副支部長(平成17年卒)共々、よろしくお願い致します。

関東支部の活動状況をご報告します。山門高校同窓会関東支部は昭和三十五年に発足以来六十五年の歴史を有します。コロナ期間中は一時休会してしまいましたが、一昨年六月、四年ぶりに再開しました。

当支部も高齢化が進んでおり、四六〇名強の会員に対し六十五歳以上が六割強を占めます。平成以降は関東方面に進学・就職する卒業生が減少、平成・令和卒の会員は全体の二割を切る状況です。

一昨年は大久保校長先生や井上同窓会会長、元支部長の古賀誠先生にご参加頂き、関東に進学した卒業生や地元福岡から参加した同窓生も含め約七十名が集いました。令和四年にデビューした演歌歌手の田口こうき君(平成二十六年卒)も参加、感情豊かな歌声で会を大いに盛り上げてくれました。昨年と同様に五十名近くが集まりました。

二〇一二年からは東京への修学旅行時の「企業研修」もサポートしています。昨年はJFEスチール千葉製鉄所、ANA機体整備工場、清水建設NOVA RE(昨年竣工の技術研究所、新一万円札の顔・渋沢栄一翁旧邸も復原)、佐川急便本社(最新の配送センターも)、みずほ銀行本店(ディリーングルーム他)等の中から生徒が希望する先での企業研修と共に、国会議

ウンサーとしてご活躍中です。演題は「終活は誰の為？人生一〇〇年時代を生きぬくためのヒント」です。坂井さんの講演では、人生一〇〇年時代を見据えた終活の重要性と、その具体的な方法についてお話しいただきます。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。再び山門の繋がりを深め、明るく元気に生きるためのヒントを共に見つけましょう。

「同窓会だより」発行と会員配布事業の名刺型広告	
真右工門窯 佐賀県西松浦郡有田町南原甲二〇〇 電話〇九五五―四二一六二七八 馬場 愛 (平成13年卒)	あゆみ進学教室 JR瀬高駅前 電話〇九四四―六四一―〇八七 代表 徳永 勉 (S55卒)
樫島印刷 樫島 博規 (S57卒)	



山門高校同窓会
QRコード

山門高校同窓会費
一、二〇〇円のご協力を
同封の郵便振り込み用紙
にてお願い致します。